

<学校評議員会プラン様式>

令和5年度 久留米市立特別支援学校評議委員会プラン

1 提言

- 提言① 進路の保障、個別の課題解決の促進を図るために、学習習慣の定着を図る。  
 提言② 進路保障につながる心身の健康推進を図るために、生活習慣の定着・強化に取り組む。

2 提言の実働化に向けた役割と具体的な取組（3者協働の場合）

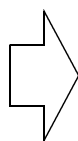
	学 校	家 庭	地域と関係機関
提言①	○児童生徒の進路選択の実態と課題について、資料の配布や懇談を通して家庭や地域・関係機関に説明する。 ○個の課題に応じた家庭学習（宿題）、家庭学習の手順やポイントを視覚的に示した手順表やヒントカード等を配布する。	○個々の障害の程度や課題に応じた自己伸長の目標像について個別の教育支援計画等を使いながら共通理解し、進路の獲得に努める。 ○家庭での学習取組表に即した点検活動を行い、称賛などの評価を実施する。	○進路保障についての課題解決を図る必要性を広報する。 ○就労支援に関する職場体験先や実習先の募集に協力してもらう。 ○あいさつや規範意識向上指導等の取組に関する広報活動を行う。
提言②	○実態把握（個々の障害の状態及び発達段階や特性を把握）及びニーズの把握に基づく個別の教育支援計画等を作成する。 ○食や健康全般に関する指導の実際について、学校だより・学年だより・学級だより等で発信する。	○個々の障害の程度や課題に応じた自己伸長の目標像について個別の教育支援計画等を使いながら共通理解し、生活習慣を高め進路の獲得に努める。 ○手伝いをする、あいさつをする、テレビを消す、生活リズムを保つように、家庭での生活表に即した点検活動を行い、称賛する。	/

※学校・家庭の2者協働の場合は、地域の欄に斜線を引く

3 子どもたちの成長

〈令和4年度〉

- ①お子さんは、「家でも、あいさつやそうじ学びが毎日できていますか。」という保護者の回答 75 %  
 ②お子さんは、「家で、テレビを消す、生活リズムを保つことができているか。」という保護者の回答 80 %



〈令和5年度〉

- ①お子さんは、「家でも、あいさつやそうじ学びが毎日できていますか。」という保護者の回答：75 %以上  
 ②お子さんは、「家で、テレビを消す、生活リズムを保つことができているか。」という保護者の回答：80 %以上

